

第15回演奏会「バッハへの道のりとバッハから」に寄せて／三澤 洋史

～ バッハから読み解くそれぞれの想い ～

「全ての音楽がバッハに流れ込み、バッハで統合され、それから再びバッハを源として流れ出し、その影響は遠く現代音楽にまで及ぶ」とはよく言われることである。その見解は間違いではないが、同時にそんな単純に割り切れないとも思う。

たとえば、パレストリーナのどこまでもたゆたうような音楽は、バッハのモテット「イエスよ、私の喜び」とは目的が違う。その間にはルターの宗教改革という断絶が横たわっている。ルネッサンス、宗教改革、啓蒙思想、フランス革命などを通して、人間は近代的自我に目覚めていくが、バッハはまさに歴史の転換点に位置する。

残念ながらバッハの後、ルター派の音楽は衰えていく。その一方で、カトリック教会の宗教音楽は、ロマン派に入るとむしろ楽曲の規模を拡大していく。だがそれらは作曲家達の個人的ファンタジーの発露に過ぎず、教会の功績ともいえない。

その中であって、真摯に祈りの世界と向かい合い、モテットというアカペラ合唱に自己の熱き信仰への情熱を凝縮させた作曲家がいた。

この演奏会では、バッハを中心に捉えながら、そうした様々な作曲家のそれぞれの想いを読み解いていきたい。



指揮者／三澤 洋史

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。2001年より新国立劇場合唱団指揮者。1999年から2003年までの5年間、「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座合唱団の音楽作りを研修。バッハに深く傾倒し、2006年、自らのバッハ演奏のホームグラウンドとして東京バロック・スコラーズを立ち上げた。ここを根拠として「21世紀のバッハ」をめざして多角的な活動を行っている。CD モテット集は、雑誌「レコード芸術」で準特選に選ばれ、話題を呼んだ。著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）がある。



オルガン／浅井 美紀

東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。在学中、安宅賞およびアカンサス音楽賞受賞。横浜みなとみらいホール・オルガニスト・インターンシップ第1期修了。オルガンを池田泉、廣野嗣雄、早島万紀子、三浦はつみ、通奏低音を今井奈緒子、廣野嗣雄、チェンバロを故小島芳子の各氏に師事。これまでに東京藝術大学助手、青山学院高等部講師を務めたほか、全国各地において演奏会を行っている。また合唱団やオーケストラとの共演にも積極的に取り組んでいる。現在、青山学院高等部オルガニスト、水戸芸術館「幼児のためのパイオルガン見学会」オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

合唱／東京バロック・スコラーズ

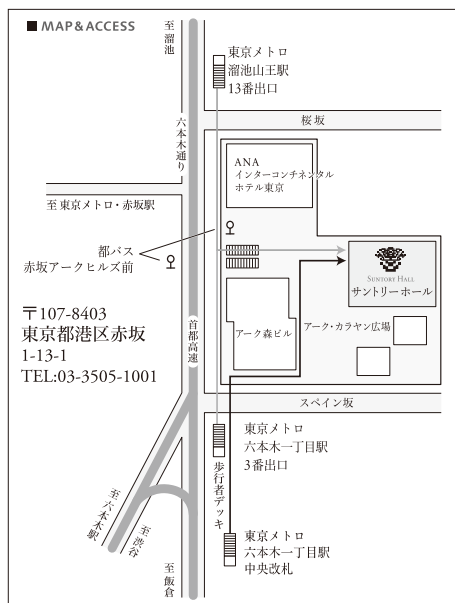
三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追求しようという志を共有する合唱団と管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。演奏のみならず、公開レッスンや講演会など多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

団員募集

「ヨハネ受難曲」を一緒に歌いませんか？
東京バロック・スコラーズでは、一緒にバッハを楽しみ、ステージを作り上げていく仲間を募集しています。次回第16回演奏会の演目は「ヨハネ受難曲」です。今後の入団オーディション予定日については、決まり次第ホームページに掲載いたします。みなさまのご参加をお待ちしています！

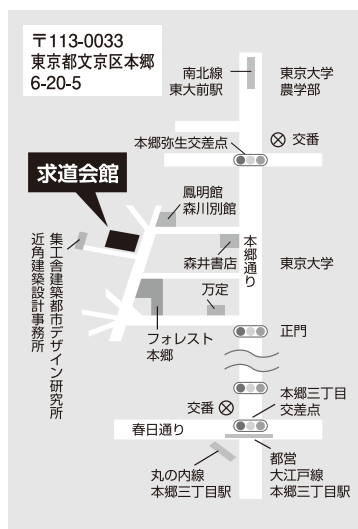
演奏会会場

サントリーホールブルーローズ(小ホール)



講演会会場

求道会館



東京メトロ南北線「東大前」より徒歩5分
都営大江戸線「本郷三丁目」より徒歩15分
東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」より徒歩15分